

## 琉球アスティダ (7364)

赤字継続、キャッシュアウト拡大。継続企業の前提の注記。飲食は直営全店撤退、サロン事業へ集中。スポーツ関連事業の赤字止血と手元流動性確保が必要。

TOKYO PRO Market | 娯楽施設 | 企業概要

BLOOMBERG 7364.JP | REUTERS 7364.T

- 赤字継続、キャッシュアウト拡大。継続企業の前提に関する重要事象あり。
- 企業代表が今年2月の選挙戦出馬。当社執行業務外での兼任にリスク。

**直近業績**：2026年2月27日発表の、非連結の12月期通期業績は、売上高が4.89億円、経常損失が▲78百万円、最終損失が▲62百万円で着地。

セグメント別業績では、スポーツ関連事業（以下スポーツ事業）のスポンサー獲得が鈍化。子会社の九州アスティダ(株)を全株売却し、傘下チームの運営から撤退した。同セグメント損失は▲162百万円に拡大した。飲食事業は直営店舗全店撤退。FC店舗1店を残すのみとなった。アスティダサロン事業（以下サロン事業）はセグメント売上が3.29億円、セグメント利益が2.22億円となった。サロン事業は企業経営者や役員、幹部候補向けの会員制クラブの運営であり、メンバーシップ会費や、有名経営者などを登壇者としたカンファレンス形式のセミナー参加料などが収益源である。2025年中に開催されたカンファレンス型セミナーは、リゾート地での宿泊やゴルフコンペを伴う内容であるため、高価格帯のレクリエーション事業に類するものとみられる。

営業キャッシュフロー（キャッシュアウト額）は前年度の連結ベース▲13.4百万円に対して、今期業績（非連結）において▲1.32億円まで拡大した。契約負債の減少額▲58百万円が寄与（契約負債の減少は債務の履行に相当する）。当期末の現金・現金同等物残高が44百万円であるため、手元流動性にも懸念が残る。

債務超過の状態は続いており、継続企業の前提に関する重要事象が生じている。25年5月23日付で第三者割当による公募増資により50百万円を調達した。26年2月に減資を実施。資本金から196百万円、資本準備金から158百万円をそれぞれ減じて、資本金50百万円と資本準備金50百万円となった。

**業績と見通し**：2026年12月期の会社業績予想は、売上高が横這いの4.89億円、経常利益が53百万円、税引き後利益が52百万円の黒字化見込む。飲食事業の直営店売上が消失するため、スポーツ事業とサロン事業の増収額が消失した飲食事業の売上相当額となる必要がある。スポーツ事業に成長が無い場合、サロン事業において25%超の売上成長達成が条件となるだろう。利益目標にはスポーツ事業の赤字止血とセグメントに属さない共通費用双方のコストダウンが条件となる。飲食店事業の直営店撤退に伴い、スポーツ事業と飲食事業とのシナジーを目指すビジネスモデルが潰れたという点にも留意すべきであろう。

こうした状況の中、代表取締役および役員が選択と集中をおこない、経営執行のみに専念しているかどうかについて、注視することが投資家には必要である。

## 業績推移

事業年度(12月期)	2022/12	2023/12	2024/12	2025/12	2026/12F
売上高 (百万円)	n.a.	n.a.	512	489	489
経常損益 (百万円)	n.a.	n.a.	(84)	(78)	53
当期純損益 (百万円)	n.a.	n.a.	(86)	(62)	52
EPS (円)	n.a.	n.a.	(54.10)	(36.60)	29.52
PER (倍)	n.a.	n.a.	-	-	23.71
BPS (円)	n.a.	n.a.	n.a.	(127.80)	-
PBR (倍)	n.a.	n.a.	n.a.	-	-
配当 (円)	-	-	-	0.0	0.0
配当利回り (%)	-	-	-	0.0	0.0

(出所：会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=会社予想、n.a.は開示なし)

\*2025年12月期より非連結決算へ移行されたため、2024年までの比較可能な業績の開示なし

配当予想 (円) - (会社予想)  
株価 (円) 700 2026/4/21 (基準値)

## 会社概要

■2018年2月にベンチャー起業家である早川周作氏により沖縄県の卓球プロスポーツチームである「琉球アスティダ」の経営を目的として設立。社名は「アスリートが明日の太陽(ていだ)となることを目標に」という理念に由来する。2021年3月30日にTOKYO PRO Marketに上場。2025年6月に子会社の九州アスティダ株式会社の全株式を売却。連結子会社が無くなったことで単体決算となった。

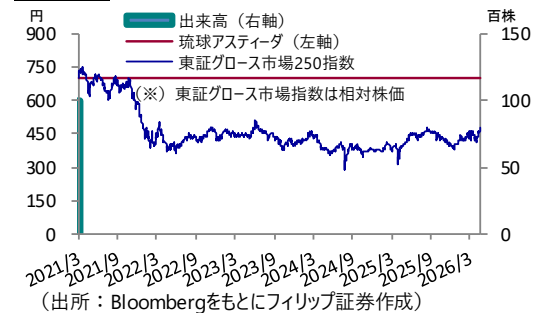
現在の主要セグメントは『スポーツ関連事業』、『飲食事業』、『アスティダサロン事業』の3つである。プロスポーツ経営と他事業とのシナジーを創出し、沖縄・九州地域に根ざした循環型ビジネスの構築を目標とする。

■スポーツ関連事業：スポンサー収入、プロ卓球リーグのTリーグ分配金およびホームゲームによるチケット販売による興行収入、卓球教室運営や物販、ファンクラブ、YouTubeチャンネル広告などの関連収入を含む。

■飲食事業：卓球台併設型の沖縄料理飲食施設「バルコラボ」を中心とした複数ジャンルの飲食店を展開していたが、2025年11月までに直営店全店を撤退。

■『アスティダサロン事業』は、経営者を対象としたコミュニティサロン運営事業として開始した。サロンのメンバーシップ会費やカンファレンス型セミナーの参加料などが収益源。

## 株価推移



## 大株主の状況 (上位5位：2026/3/31発表) (%)

1.早川 周作	49.03
2.佐野 健一	4.85
3.MITGV投資事業有限責任組合 無限責任組合員 株式会社MTG Ventures	3.40
4.有限会社 FORWARD	2.83
5.岡田 晃男	2.55

(出所：会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

## リサーチ部

## 三角 友幸

tomoyuki.misumi@phillip.co.jp  
+81 3 3666 0707

## 笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp  
+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者： リサーチ部 三角友幸

公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として本レポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平 14.1.25）」に基づく表示>

1. フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。
2. フィリップ証券は、東京証券取引所の定める「特定上場有価証券に関する上場規程の特例」（以下「特例」）第102条の規定または福岡証券取引所の定める「特例」第102条の規定に基づき、発行会社の担当 J-Adviser または F-Adviser、あるいはその両方に就任する旨の契約を締結いたしております。また、フィリップ証券は、東京証券取引所の定める「特例」第135条または福岡証券取引所の定める「特例」第135条に定める流動性プロバイダーであり、発行会社株式の円滑な流通の確保に努めるほか、流動性プロバイダーとしての義務を負っています。